

5 【検証項目】統合による教育効果等

(1) 学習指導

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 学習指導がわかりやすくなった。【対象：卒業生、中3】

⇒肯定的評価の割合が全体の約5割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約1割を、無回答が約1割を占めている。

ア-1 (肯定的評価をした者に対し) その理由

⇒「電子黒板などICT機器が導入されたため」が1番目に多く、「教職員数が増えたことによりいつでも質問できるようになった」が2番目に多かった。

イ 学習指導が充実するようになった。【対象：教職員】

⇒肯定的評価の割合が全体の約5割を、中間的評価が約4割を占めている。

イ-1 (肯定的評価をした者に対し) その理由

⇒「電子黒板などICT機器が導入されたため」が1番目に多く、「教職員数が増えたことにより教材の研究や研修の時間が確保できるようになったため」が2番目に多かった。

検証結果

この設問は、統合により多数の教員が配置できたことに伴う学習・指導内容について変化の実感を調査するものである。

学習指導がわかりやすくなったことについては、肯定的評価が全体の約5割で統合がそのように変化するきっかけになったと捉えられる。電子黒板などICT機器の導入や、教職員数が増えたことによりいつでも質問できるようになったことがその理由である。

学習指導が充実するようになったことについては、肯定的評価が全体の約5割で統合がそのように変化するきっかけになったと捉えられる。電子黒板などICT機器が導入されたことや、教職員数が増えたことにより教材研究や研修の時間が確保できるようになったことがその理由である。

電子黒板は、平成26年度から第三・第四中学校において導入しており、その成果が表れている。また、多数の教員を配置できることにより、学習・指導体制を充実化が図られている。

6 学習指導

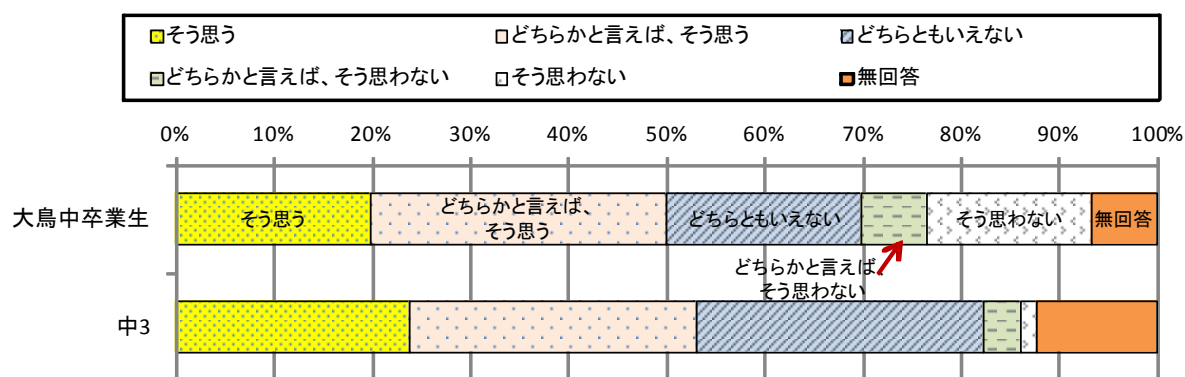
(1) 学習指導がわかりやすくなった。

【対象:卒業生、中3】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約5割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割、無回答が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	6	9	6	2	5	2	30
中3	31	38	38	5	2	16	130
計	37	47	44	7	7	18	160
	23.1%	29.4%	27.5%	4.4%	4.4%	11.3%	100%

(1) 学習指導がわかりやすくなった



(1)-1 その理由(複数回答可)

【対象:学習指導がわかりやすくなったかという設問に対し肯定的な回答をした卒業生、中3】

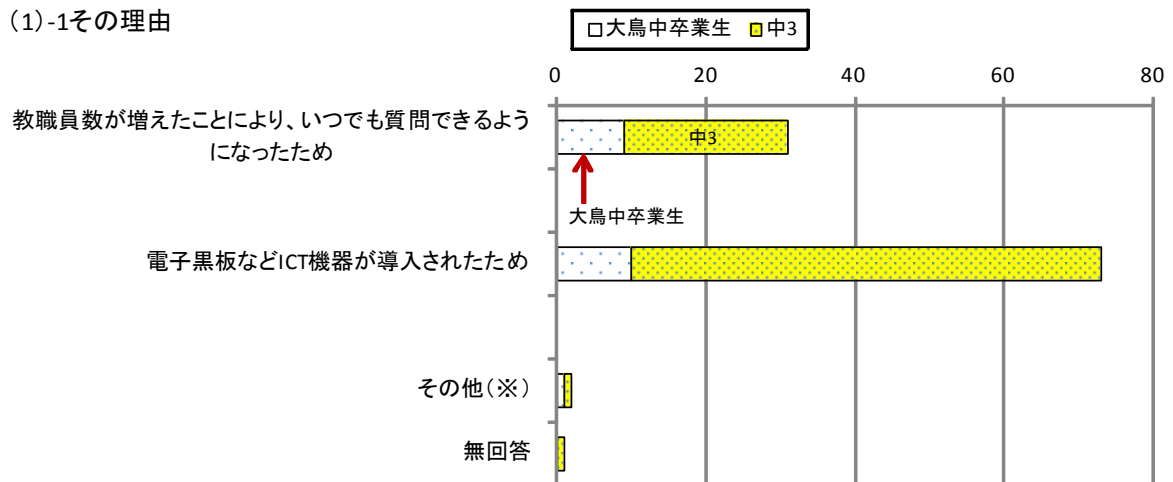
結果「電子黒板などICT機器が導入されたため」が1番目に多く、「教職員数が増えたことにより、いつでも質問できるようになった」が2番目に多かった。

	教職員数が増えたことにより、いつでも質問できるようになったため	電子黒板などICT機器が導入されたため	その他(※)	無回答	計
大鳥中卒業生	9	10	1		20
中3	22	63	1	1	87
計	31	73	2	1	107
	29.0%	68.2%	1.9%	0.9%	100%

(※その他の理由)

- 新しい先生の教え方がわかりやすかったため(卒業生)
- 質問しやすい先生が多くなった(中3)

(1)-1その理由



6 学習指導

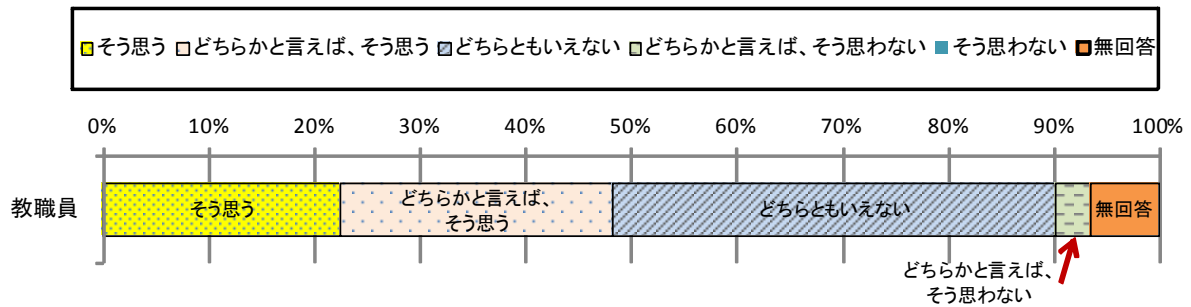
(2) 学習指導が充実するようになった。

【対象:教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約5割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約4割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
教職員	7	8	13	1	0	2	31
	22.6%	25.8%	41.9%	3.2%	0.0%	6.5%	100%

(2) 学習指導が充実するようになった



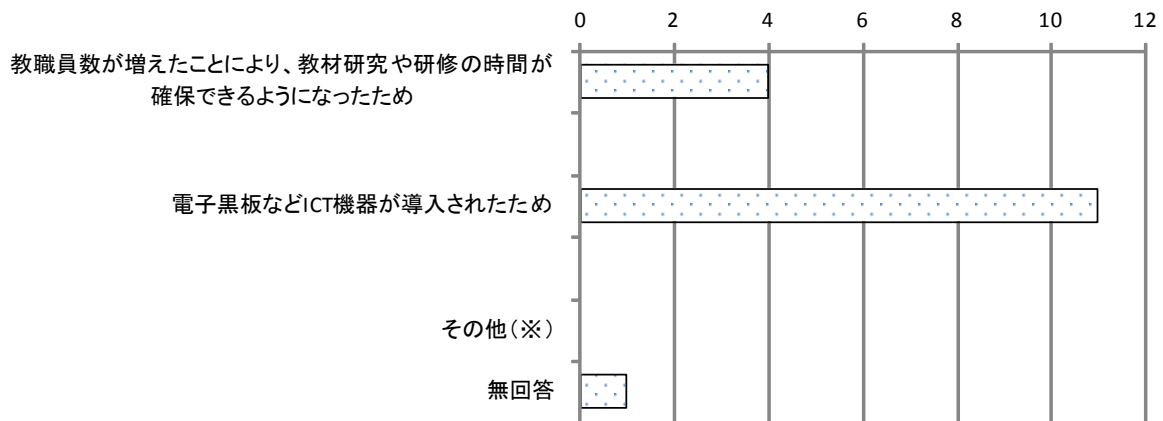
(2)-1 その理由 (複数回答可)

【対象:学習指導が充実するようになったかという設問に対し肯定的な回答をした教職員】

結果 「電子黒板などICT機器が導入されたため」の件数が1番目に多く、「教職員数が増えたことにより、教材研究や研修の時間が確保できるようになったため」が2番目に多い。

	教職員数が増えたことにより、教材研究や研修の時間が確保できるようになったため	電子黒板などICT機器が導入されたため	その他(※)	無回答	計
教職員	4	11		1	16
	25.0%	68.8%		6.3%	6%

(2)-1その理由



自由意見（要旨）

■学習指導

○11 クラス以上で主要5教科複数教員配置が実現出来ていることは、統合の大きな目的の1つを達成出来ていて大変良いと思います。今後、少子化でクラス数が減っても、複数教員配置は守ってほしい。教科担任が1名だと学習につまづいた生徒のフォローなどは難しいと思います。（在校生保護者）

○中学になり、勉強もグレードアップしたものの、ついて行けてるのか…。補習の時間を増やす、高校に関する説明会（生徒に対する）を増やすなど、生徒の意識を向上させる機会が増えるとなおいいです。（在校生保護者）

○学習についていけないと取り残されている感じがする。（在校生保護者）

■電子黒板

○電子黒板の導入で黒板に文字を書かない先生が多くなって、分かりにくい。書くスピードがまに合わない。（在校生）

○電子黒板はツールとして非常に活用できるのでありがたいです。ありがとうございます。（教職員）

大鳥中学校長ヒアリング

○最初は、教員によっては電子黒板に抵抗感もあったが、今では全教員が使用している。授業改善に効果は大きく教員も手ごたえを感じている。

○校区の小学校や研究授業等で来校した教員からは、全教室への設置等をうらやむ声もあり、電子黒板の活用意欲も高まってきたと感じている。

○板書する時間を割愛できるので1時間の内容が濃くなる。

○電子黒板を利用しながら考えさせる、書かせる授業をするよう指導している。

○副教材は、前年度から決めていた。

○評価は、初年度の3年生の保護者が気にしていた。教員には事前に十分にすりあわせをすること、前年度の評価も十分に確認しながら評価するよう指導した。生徒や保護者に時間をかけて説明をし、理解を得た。

(2) 学年経営、学級経営等

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 教職員数が増えたことにより、学年経営、学級経営が充実するようになった。【対象：教職員】

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約2割を、否定的評価が約1割を占めている。

イ 教職員数が増えたことにより、生活指導が充実するようになった。【対象：教職員】

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約2割を、否定的評価が約1割を占めている。

検証結果

この設問は、統合により多数の教員が配置できたことに伴い学年経営、学級経営、生活指導について変化の実感を調査するものである。

いずれも高い肯定的評価を得ており、指導体制の充実につながっていると考えられる。

特に、統合新校の教育課程、目指す学校像、教育目標、指導内容等については、平成24年度から専門部会で継続して検討してきており、教育の基盤づくりをしっかりとできたと言える。

なお、自由意見では、大鳥中学校校長や教職員の教育に対する積極的で熱意のある姿勢を評価する声が多数あり、日常的なの取組みが大切であることが改めて理解できる。

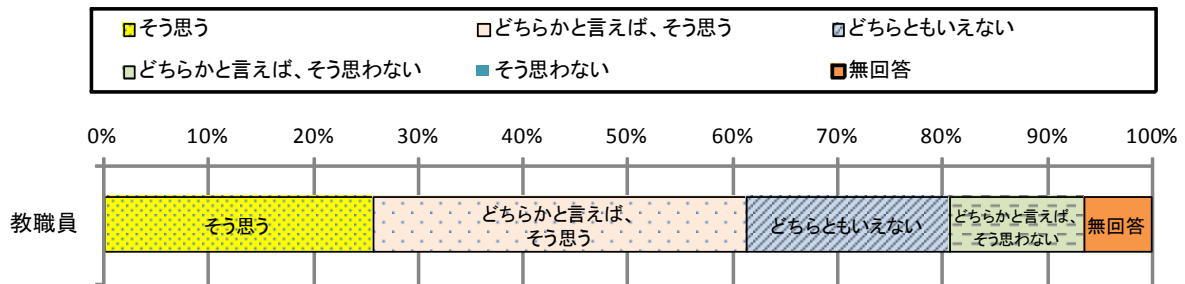
7 学年経営、学級経営等 ※教職員

(1) 教職員数が増えたことにより、学年経営、学級経営が充実するようになった。

【対象：教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、否定的評価(「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	8	11	6	4	0	2	31
	25.8%	35.5%	19.4%	12.9%	0.0%	6.5%	100%

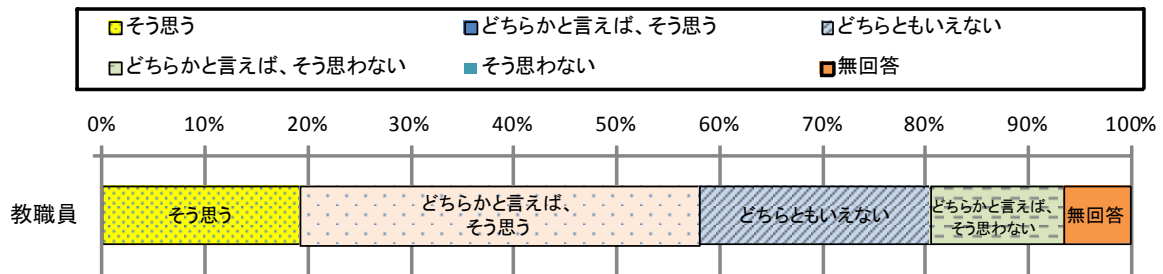


(2) 教職員数が増えたことにより、生活指導が充実するようになった。

【対象：教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、否定的評価(「どちらかと言えば、そう思わない」)が1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言 えば、そう思 う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	6	12	7	4	0	2	31
	19.4%	38.7%	22.6%	12.9%	0.0%	6.5%	100%



自由意見（要旨）

- 一番の安心は、学校長に四中の校長が引継いでくださったことです。（在校生保護者）
- 校長先生のパワー、本当にすばらしいです。（在校生保護者）
- 校長先生はじめ先生方の人事がすばらしいので、子供達も落ち着いて学校生活を送れていると思います。統合した後の混乱を少なくするためにも、やはり先生方の人事配置は重要になると思います。（在校生保護者）
- 一番、進路の事も相談したい時にコミュニケーション取りずらかった。（大鳥中卒業生保護者）
- 大鳥中学校の先生方が非常に積極的で、生徒のことをとても気を使っていて、いい環境を作っています。（在校生保護者）
- 生徒に統合をリスクと感じさせない様、先生方も日々努力されていて、保護者である私も、子供も素敵な学校であることに感謝しております。（在校生保護者）
- 6年時に大鳥中の学校だよりが配布されました。中学校の行事、内容、取り組みがよくわかり、とても参考になりました。学校説明会時にご説明くださった校長先生のお話にもとても魅力を感じました（校長先生がかわってしまったら魅力は半減です！。スピーチ中の英語も素敵です。）。やはり、校長先生の方針によって学校の雰囲気、カラーが決まると思います（先生方の風通しのよさ、子どもたち、地域との関係など良好と思います。）。大鳥中の元気があって活気がある校風を守ってほしいです。少なくともあと2年は、牛島校長先生にお願いしたいです。ぜひぜひよろしくお願ひいたします（三中、四中を知りつくした先生だからこそ、安心しておまかせできると感じております。）（在校生保護者）
- 旧四中に長男がおりました（合併前）。その時と比較して、先生方がすばらしい！熱心で力量のある先生方がそろっていると感じました。やはり、教育は指導者次第と思いました。落ちついたからと言って、先生を変えないでほしい。（在校生保護者）
- 牛島校長の指導力に大きく依拠していると思います。雰囲気が前向きに元気よくなっています。三中・四中両校の校長を務められたことも生きていられると思われまふ。（在校生保護者）
- 開校の年が入学の年でしたので、先生方はとてもたいへんだったと思いますが、1つ1つの行事や学習それぞれを大切にすすめていただき、感謝しています。特に校長先生の気配りには頭が下がります。ただ、在校中に環境がかわつたら考えると、なかなかたいへんだろうなとも思います。（在校生保護者）
- 良い先輩（PTAもです）、良い先生にめぐまれて感謝しています。（在校生保護者）
- 現場の先生方は、子ども達のためにも力を発揮してくださっていると思う。大変に感謝しています。（在校生保護者）
- 校長先生がかわらなくて、とてもよかったです。（在校生保護者）
- 先生方も統合校ということで、メリハリを持って臨んでくださっています。（在校生保護者）
- 教職員同士の方がもっと関わりを持った方が良いと思います。〇〇小だから、中学校だからではなく大鳥中学校区として、先生方のつながりの方が希薄に見えます。それで小中連携…と言われても???です。（在校生保護者）
- 先生方の指導がきちんとあったので、大鳥中は落ち着いているのだらうと思う。（在校生保護者）
- 校長先生を筆頭にさまざまな活動に取り組んで下さり感謝しております。引き続きよろしくお願ひします。牛島校長には出来る限り長く大鳥中で活躍いただきたいです。（在校生保護者）
- 何より、牛島校長先生の明るくて元気で魅力的なお姿が、統合成功に導かれたように思います。来年度もぜひお願ひしたいです（入学1期生を見送って欲しいです。）（在校生保護者）
- 説明会で、校長の方針としては「まずは学業」という考えに共感し学校を選んだが、他の先生方にその方針が伝わっていないと感じた（部活優先等）。（在校生保護者）
- 全生徒迄、教員の目が届いてない気がする。（在校生保護者）
- 統合当初は、学校が荒れたり落ち着くまでこれほど時間がかかるのか、親も子も不安に思っていました。始まってみればほとんど心配するようなこともなく、順調に学校生活を送ることが出来、安心しました。それも、皆様のおかげと感謝しております。（在校生保護者）
- 校長先生が、三中、四中に長年たずさわっていたこともあり心から大鳥中を愛していると感じます。（在校生保護者）
- 校則がどんどんゆるくなっている。（在校生保護者）
- 教職員は、〇〇魂を！というのも良いですが、反面で他を受け入れる姿勢を進んで子供に見せて、統合は良い事もあるとしっかり伝えて欲しいと思います。教職員も、子供も、保護者も、地域住民も、行政の方々も、コミュニケーション能力の低下が著しいです。教職員と子供のコミュニケーション能力をUPさせるカリキュラム等を、統合の話を出す前に取り入れるのも良いかもしれません。（大鳥中卒業生保護者）
- 大鳥中学校は「学校説明会」にひと工夫必要かと思ひます。3人の先生がリバーポイントを使ってお話してくださいましたが、内容の重複、誤字などがあり、アピールべただと感じました。この説明会で中央中と比較して中央中を選んだという声も聞かれましたので、統合校は学校説明会の入念な準備をご提案いたします。第一印象はかなり重要ですので、どうぞ、よろしくご検討くださいませ。（在校生保護者）

大鳥中学校長ヒアリング

○教育目標は分かりやすく今日的な内容であり、評判が良い。

「自主(Initiative)・協働(Collaborative)・創造(Creative)」は全ての活動に当てはまる。熟議した結果、素晴らしい目標となった。英語でイメージが湧く子どももいるので、英語を付記したことも良かった。

○教職員で相談しながら取り組んでいる。

○教育内容の検討については、両校教員と教育指導課、めぐろ学校教育プラン推進員を中心に検討した。新校として、質の高い教育活動を掲げた。英語教育に力を注ぐなどPRにもなり、教育目標など素晴らしい学校像が出来上がった。

(3) 特色ある教育活動

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議や、特別支援学級との交流など「人権教育の推進」に魅力を感じている。

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約3割を占めている。

イ いつでもどこでも英会話やE（イングリッシュ）キャンプなど「英語によるコミュニケーション能力の育成」に魅力を感じている。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を占めている。

ウ 実践的な職業体験や多様な職業人から学ぶ教室など「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」に魅力を感じている。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を占めている。

検証結果

この設問は、大鳥中学校の特色ある教育活動の魅力についての実感を調査するものである。

「人権教育の推進」、「英語によるコミュニケーション能力の育成」、「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」のいずれも高い肯定的評価を得ており、これらの事業展開が大鳥中学校の魅力づくりに寄与しているものと考え。特に、自由意見では英語教育への関心が強い。

統合新校整備方針において、目指す学校像、学校づくりの視点を示し、これを踏まえた重点的教育活動として取り組むものとしており、その設定が妥当であったことを表している。

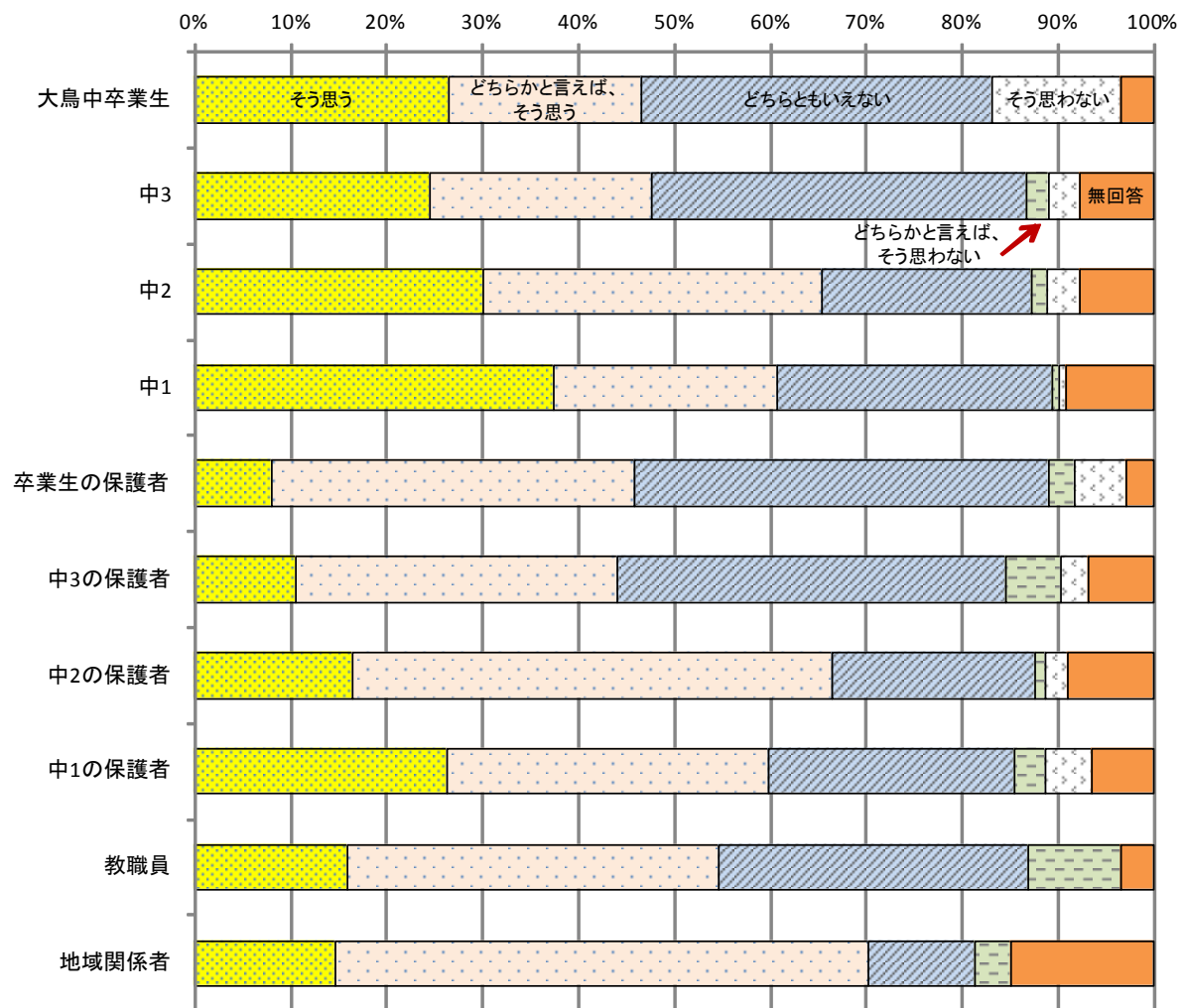
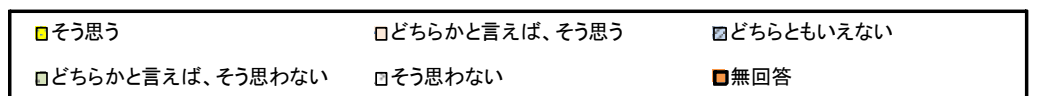
8 特色ある教育活動

(1) いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議や、特別支援学級との交流など「人権教育の推進」に魅力を感じている。

【対象：全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が3割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	8	6	11	0	4	1	30
中3	32	30	51	3	4	10	130
中2	36	42	26	2	4	9	119
中1	50	31	38	1	1	12	133
卒業生の保護者	3	14	16	1	2	1	37
中3の保護者	11	35	42	6	3	7	104
中2の保護者	15	45	19	1	2	8	90
中1の保護者	33	42	32	4	6	8	125
教職員	5	12	10	3	0	1	31
地域関係者	4	15	3	1	0	4	27
計	197	272	248	22	26	61	826
	23.8%	32.9%	30.0%	2.7%	3.1%	7.4%	100%

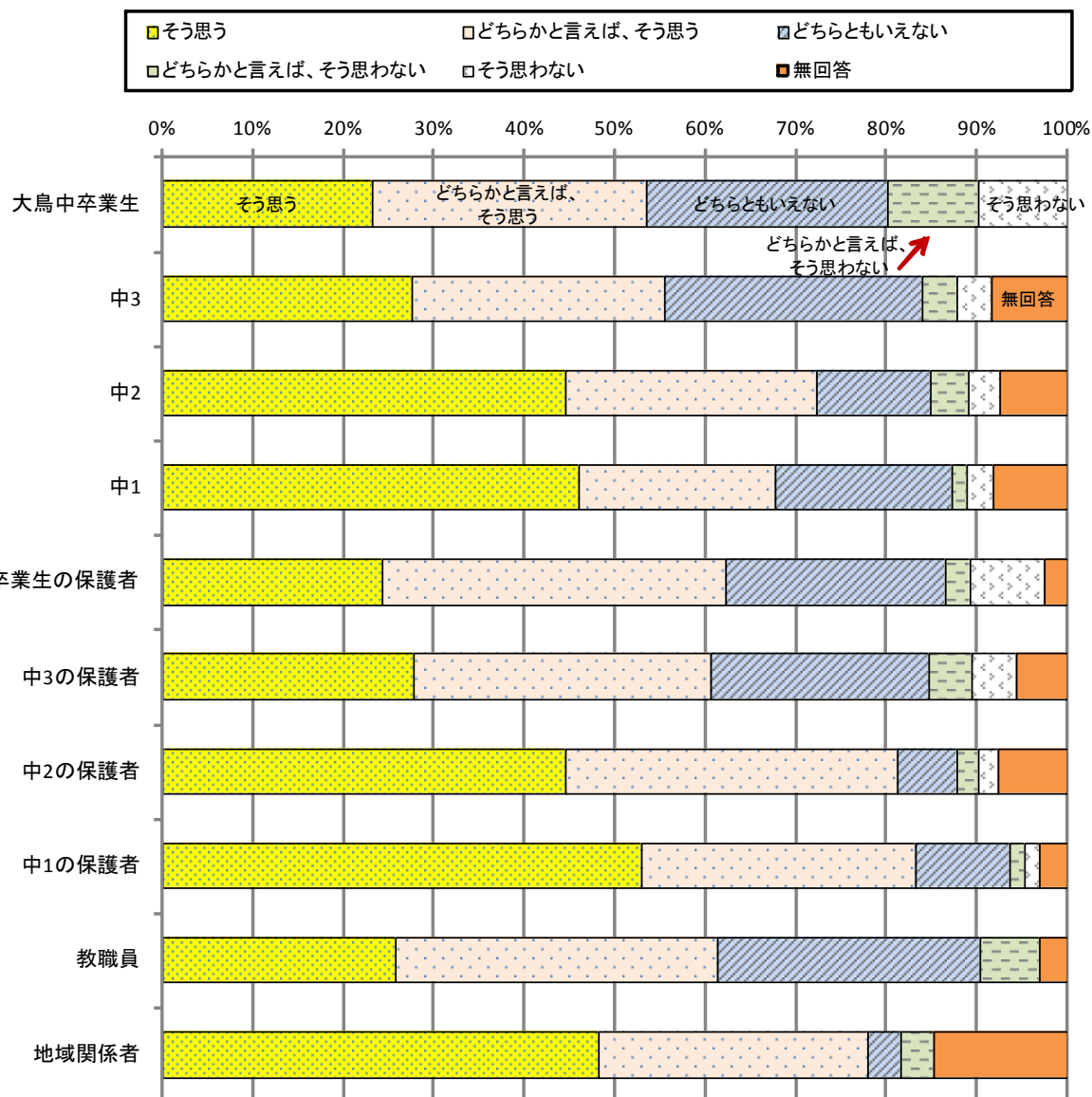


(2) いつでもどこでも英会話やE(イングリッシュ)キャンプなど「英語によるコミュニケーション能力の育成」に魅力を感じている。

【対象: 全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	7	9	8	3	3	0	30
中3	36	36	37	5	5	11	130
中2	53	33	15	5	4	9	119
中1	61	29	26	2	4	11	133
卒業生の保護者	9	14	9	1	3	1	37
中3の保護者	29	34	25	5	5	6	104
中2の保護者	40	33	6	2	2	7	90
中1の保護者	66	38	13	2	2	4	125
教職員	8	11	9	2	0	1	31
地域関係者	13	8	1	1	0	4	27
計	322	245	149	28	28	54	826
	39.0%	29.7%	18.0%	3.4%	3.4%	6.5%	100%

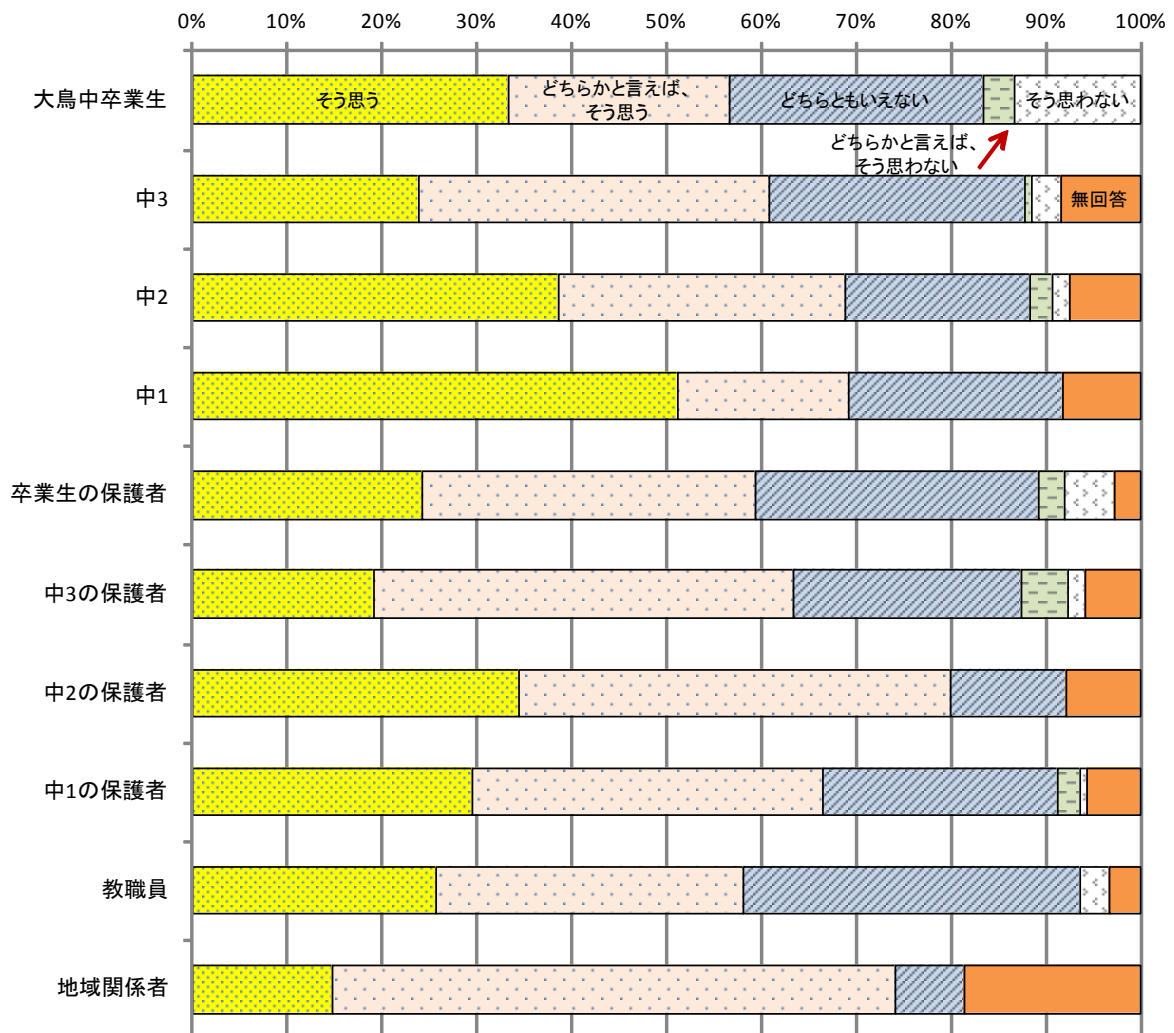
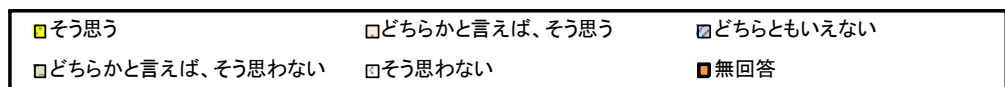


(3) 実践的な職業体験や多様な職業人から学ぶ教室など「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」に魅力を感じている。

【対象: 全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	10	7	8	1	4	0	30
中3	31	48	35	1	4	11	130
中2	46	36	23	3	2	9	119
中1	68	24	30	0	0	11	133
卒業生の保護者	9	13	11	1	2	1	37
中3の保護者	20	46	25	5	2	6	104
中2の保護者	31	41	11	0	0	7	90
中1の保護者	37	46	31	3	1	7	125
教職員	8	10	11	0	1	1	31
地域関係者	4	16	2	0	0	5	27
計	264	287	187	14	16	58	826
	32.0%	34.7%	22.6%	1.7%	1.9%	7.0%	100%



自由意見（要旨）

■英語によるコミュニケーション能力の育成

- 校長先生も教育熱心で、特に英語の時間が楽しかったようです。（大鳥中卒業生保護者）
- 英語推進など、統合校に特色を持たせるのはとてもよい。イングリッシュキャンプは中2メインと言われるが、学年問わず希望者は全員参加させてほしい（費用負担が少し増えても可）。（大鳥中卒業生保護者）
- 英語を使うって、この年ごろの子供は、はずかしかったりするだろうに、まちがえることを恥とも感じずに、家の中でも英語を持ち込んでくれます。学校の雰囲気のおかげだと思います。（在校生保護者）
- もっと、自然に英語が話せる環境がほしい。（在校生保護者）
- 特色として、英語教育の充実を挙げるのであるなら、外国でも通用する様な英語を教えて頂けると有難いです。（在校生保護者）
- 英語教育も素晴らしく、子供も喜んでおります。（在校生保護者）
- 統合初の新一年生ということで、様々な小学校から集まった子達が分け隔てなく仲良くなり、E-Campなどの行事も充実していてよかったと思います。（在校生保護者）
- イングリッシュキャンプの実施も満足しています。（在校生保護者）
- 英語に力を入れているところもとても魅力的です。（在校生保護者）
- 1年生で参加したイングリッシュキャンプで、他学年と交流できたのもとても良い事だと思う。（在校生保護者）
- 英語が重点校に指定され、校長の配置等、統合に御手伝い出来たことも、時流をえた重点（英語）と教育委員会の先見性を評価します。牛島校長の検討を祈ると共に、耳の訓練の為に発音の良い先生を多く育成する。音感は幼児より、低学年の教育（英語）に今後一層の力を希望します。（地域関係者）
- 結果として、英語教育の重視など、次期学習指導要領を先取りして具現化する形となってよかった。今後も統合にあたっては、+αを打ち出せるような学校づくりにつながると、新しい教育スタイルを統合により実現させるという強みがでてくると思う。（地域関係者）
- 英語に力を入れているところもとても魅力的です。下に2人小学校の子がいますが、是非、大鳥中に入れようと思っています。（在校生保護者）

■人権教育の推進

- 特別支援学級の生徒たちとも身近で交流を図ることが出来る環境のため、生活をしながら社会教育、道徳教育を学べる良い環境だと感じています。（在校生保護者）
- 特色ある教育活動のいじめ問題を考えるめぐろ子ども会議についてですが、実際に役立っているか疑問に思います。実際に道徳心が高まっているとは全く思えないのです。もっと多くのアプローチ、生徒間、教師間のあたたかいやりとりがあって「いじめ」は減らせるのではないかと思います。ただ子ども会議をやっているというだけでは特色にはならないと思います。（在校生保護者）

大鳥中学校長ヒアリング

- 特色ある教育活動は、どうしても英語が目立つが、三中で行われていたキャリア教育、2つの特別支援学級もあり人権教育も大切にしている。公立中学校での英語教育は目玉となるが、教員には3つすべてが大切と日頃から言っている。
- E キャンプは、その都度、活動の様子を撮影してホームページで公開した。めずらしい取組で関心が高く、アクセス数も多かった。新校の特色として良い評価を得ている。
- 開校して新たに始めた活動はイングリッシュストリートだ。生徒は喜んで参加し、自主的に勉強する気持ちが高まった。
- 英語教育は新しい時代に合ったもので、子どもたちのために大事だと思っている。

(4) 特別活動

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 校外学習、運動会、文化祭などが活発になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を、無回答が約2割を占めている。

イ 生徒総会、中央委員会、専門委員会、学級委員会など生徒会活動が活発になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約3割を、無回答が1割を占めている。

ウ 部活動が活発になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を、無回答が約1割を占めている。

検証結果

この設問は、特別活動について変化の実感を調査するものである。

学校行事、生徒会活動、部活動のいずれも高い肯定的評価を得ており、活発になったと捉えられる。これは、学校の適正規模化により集団活動を通じた人間関係の広がりなどが実現できていると考えられる。

否定的評価は1割未満であるが、その理由は、学校行事については出番が減ったことなど、生徒会活動については統合前から活発など、部活動については活動場所や活動時間の制限などである。なお、部活動に対しては、自由意見でもこのような指摘があった。

9 特別活動

(1) 校外学習、運動会、文化祭などが活発になった。

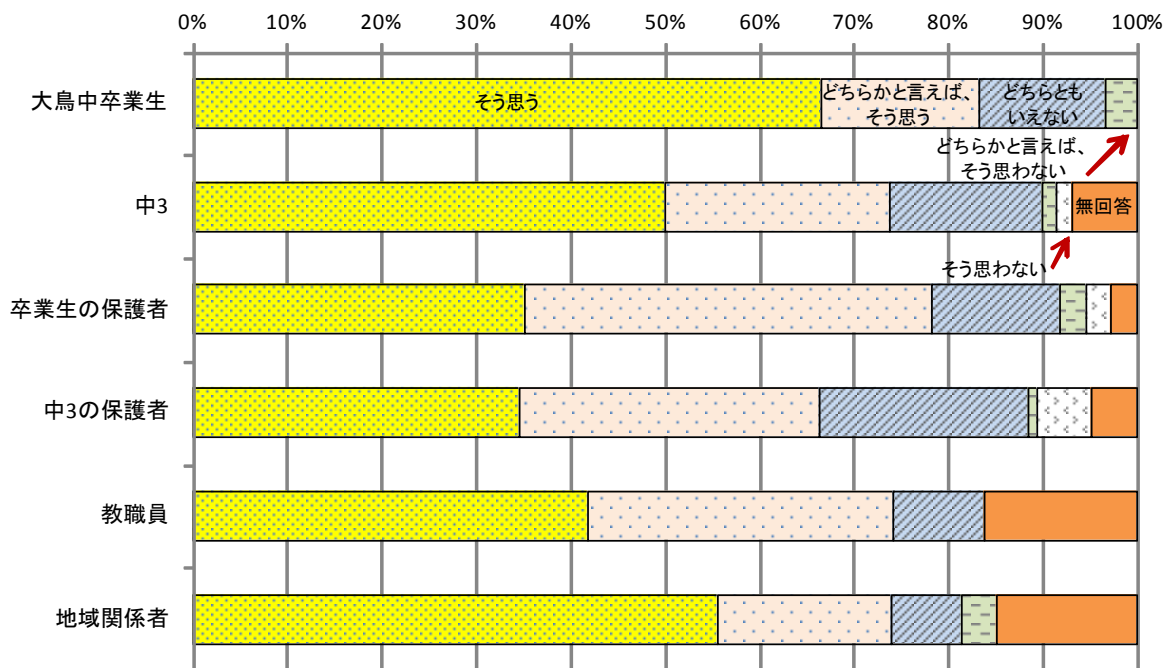
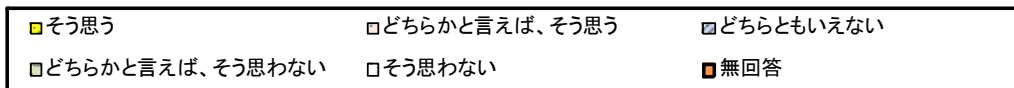
【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者、教職員、地域関係者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、無回答が2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	20	5	4	1	0	0	30
中3	65	31	21	2	2	9	130
卒業生の保護者	13	16	5	1	1	1	37
中3の保護者	36	33	23	1	6	5	104
教職員	13	10	3	0	0	5	31
地域関係者	15	5	2	1	0	4	27
計	162	100	58	6	9	24	359
	45.1%	27.9%	16.2%	1.7%	2.5%	6.7%	100%

※どちらかと言えば、そう思わない若しくはそう思わないを選択した理由

- 生徒数や学級数が増えたことにより、1人1人の出番が減ったため(特に運動会) (卒業生)
- あまり変わらない気がする(中3)
- 生徒数が増えたから(中3)
- 出番が減った(卒業生保護者)
- それまでと変わらなく思う。(卒業生保護者)
- 運動会の迫力があまり感じられない。(中3保護者)
- 変化を感じない(中3保護者)
- 統合前から活発(中3保護者)
- 以前の方がよかった。(中3保護者)
- 三中の時から活発であった。三中の時の方が活発だったと思う。(中3保護者)
- ハキがない。やらされてる感がすごく見られる。(中3保護者)
- 従前の活動がわからない(地域関係者)



(2) 生徒総会、中央委員会、専門委員会、学級委員会など生徒会活動が活発になった。

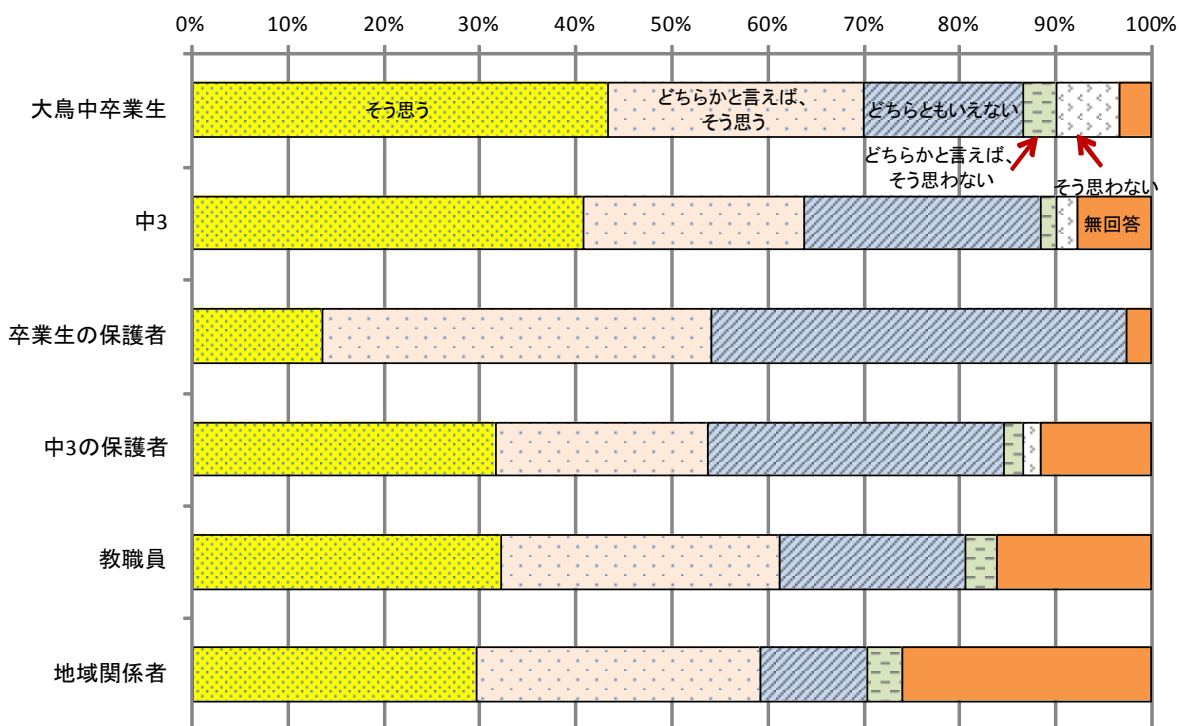
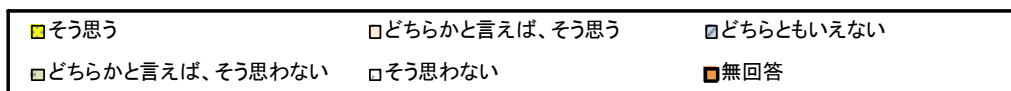
【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者、教職員、地域関係者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、無回答が1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	13	8	5	1	2	1	30
中3	53	30	32	2	3	10	130
卒業生の保護者	5	15	16	0	0	1	37
中3の保護者	33	23	32	2	2	12	104
教職員	10	9	6	1	0	5	31
地域関係者	8	8	3	1	0	7	27
計	122	93	94	7	7	36	359
	34.0%	25.9%	26.2%	1.9%	1.9%	10.0%	100%

※どちらかと言えば、そう思わない若しくはそう思わないを選択した理由

- 生徒数が増えたから (中3)
- 今までと変わらない (中3)
- 新しい仕事が増えて、まだとまどいがあるから (中3)
- 統合前から活発 (中3保護者)
- 三中の時と大きな差はないと思います。(中3保護者)
- あまり学校に行っていないので、見えないし分からない。(中3保護者)
- 委員会によっては逆に活動が弱まったものもある。担当ください。(教職員)
- 従前の活動がわからない (地域関係者)
- 従前の活動がわからない (地域関係者)



(3) 部活動が活発になった。

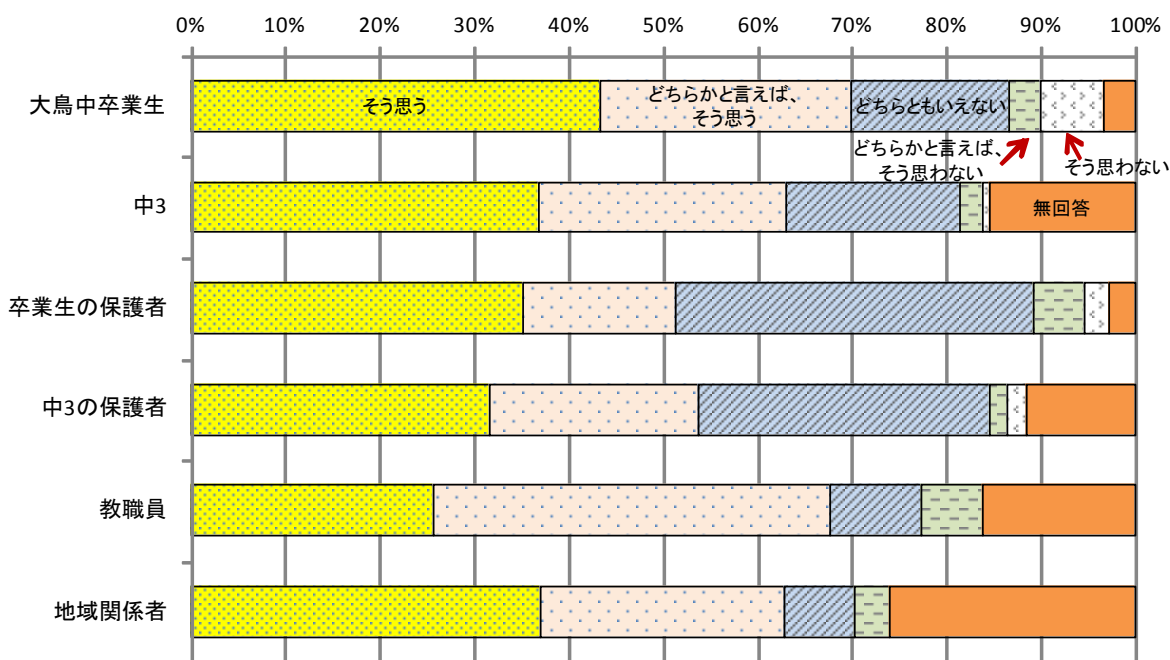
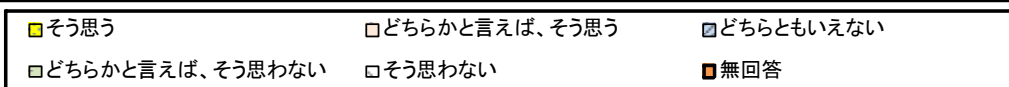
【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者、教職員、地域関係者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、無回答が1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大島中卒業生	13	8	5	1	2	1	30
中3	48	34	24	3	1	20	130
卒業生の保護者	13	6	14	2	1	1	37
中3の保護者	33	23	32	2	2	12	104
教職員	8	13	3	2	0	5	31
地域関係者	10	7	2	1	0	7	27
計	125	171	80	11	6	46	439
	28.5%	39.0%	18.2%	2.5%	1.4%	10.5%	100%

※どちらかと言えば、そう思わない若しくはそう思わないを選択した理由

- 人数が増えただけで、活発さは変わらない(卒業生)
- 展示がなくなる、活動内容の大幅な改定(ゲーム作成ではなく校内案内図づくりなどetc)(卒業生)
- 体育館が全く使えなくなってしまった(中3)
- 生徒数が増えたから(中3)
- 四中の今までやってきた事を何一つ取り入れてもらえなかった(中3)
- 先生は増えたけど、人数コートが減った(中3)
- 人数が増えて強くなったが、朝練ができない(中3)
- 活動時間が減った(卒業生保護者)
- 活発になるのはこれからかと思う。1年目だったので、新しい顧問の先生や仲間になかなか慣れなかった。(卒業生保護者)
- 部活のコートが整備されず、練習がほとんどできなかった。(卒業生保護者)
- 統合前から活発(中3保護者)
- 部活の数が増えた分、校庭を使用できる日数が減などの制限がある。(中3保護者)
- 指導者が四中の時は卓球顧問の先生が熱心に教えていたので、大会に勝っていたが、今はポチポチなので。(中3保護者)
- 校庭が狭いのを使用する運動部が多いため、十分なスペースが確保されていない。(中3保護者)
- 練習場所、時間の確保が難しくなった(教職員)
- 部活動が増え活動場所・時間が少なくなった。(教職員)



自由意見

■部活動

○部活動が増えたことで練習時間が減少した。(大鳥中卒業生)

○校庭が部活動をするにはせますぎると思います。かいぜんしてあげてください。(大鳥中卒業生)

○部活の数が増えて、部活日数が統合前より少なくなり、活動場所もせまくなった。(在校生)

○統合は、結果的に良かったと思っています。ただ、部活にかんしては、ユニフォームなどのフォローもなく、保護者負担が大きく胸に落ちませんでした。3年生でしたので、一度の着用の為でした。(大鳥中卒業生保護者)

○部活(特にユニフォーム)へご配慮いただけると助かりました。あの時期に大鳥中ユニフォームへ全取替というのは正直大変でした。(大鳥中卒業生保護者)

○学校統合をする事により、部活動も活発になる事はプラス面であると思う。一方で、元々ある教室の広さに対して、人数が多くなった事で狭くなる事、部活動(特に屋外を練習場所として使用する部活)は、校庭の利用が限られるので不便さを感じる。(在校生保護者)

○部活動のコーチや顧問の先生は、とても熱心でしっかりしていて有難いです。(在校生保護者)

○部活は、部員数が増えたことにより、より活発化してよかった。(例)テニスコート増など。(在校生保護者)

○グラウンドの件ですが、部活動の練習試合で(サッカー部)コート枠が確保できない為出向くばかりで、交通費などばかりになりません。本校でも練習試合が出来るようグラウンド整備を希望します。(在校生保護者)

○中学校は生徒数が少ないと、部活動の人数不足の為、大会などに出場できなくなってしまう為、統合により部活動が活発になったことが、とても良かったと思います。(在校生保護者)

○統合され部活は増えたが、旧三中生徒は(2年生)新しい部活を希望しても1年間の差が出てしまい、実際には元の部活を辞める事も出来ずかわいそうでした。部活数は合わせた方が良いと思います。(在校生保護者)

○部活の選択肢がふえたことは良いと思いますが、運動部が多すぎて十分な練習環境といえなくなっているように思います。また、統合された春は施設が使えないことが多く、大切な春の部活の大会前に十分に練習できませんでした。(在校生保護者)

○校庭や体育館を使用する部活動については、数の増加により使用頻度・スペースが激減し、満足な活動とはいえない状況となってきています。ほかの区の設定を優先的に使用することができるようにする等、統合以前と同じ又は、それ以上の活動ができるようにしていただきたいと強く希望いたします。(在校生保護者)

○統合時、三・四中の部活動をすべて継続したことで、今後、旧四中が使えなくなると部活動を減らざるを得ない。各部がそれぞれ一生懸命やっている中で、どれかを廃部にすることがないように何か策を講じてほしい。(在校生保護者)

○生徒数は確かに増えましたが、器(校舎)は以前のままです。部活動がひしめいてやっているように感じます。統合にあたりやむを得ない決断だったとは思いますが、“器に応じた数”にするのも一考だったと思います。(在校生保護者)

○部活動は数も増え、選択肢が広まった一方、練習場所や部員確保、教職員(顧問)の確保に苦しみ、充実したというよりも広く浅くなった印象です。行事等は、人数も増え派手になったように見えますが、肝心の内容にはまだまだ満足できていません。(教職員)

■特別活動

○もし、元三中・元四中のここがよかったとの意見があれば、特別活動として取り入れられたら子どもたちはこれ以上の幸せはないと思います。(在校生保護者)

○残念だった事は、委員会活動など生徒の人数が増えてしまうと積極的な子に偏ってしまうように感じます。あと、先生と生徒の距離が遠くなってしまったように思いました。(在校生保護者)

大鳥中学校長ヒアリング

○体育祭の学年ダンスは、学級担任と子ども達が頑張り、電子黒板で映像を見たり、放課後に練習したりした。

○初年度の10月までは両校を尊重して会長・副会長等の役員を全て残した。レクリエーションなどの活動内容も両校残しながら取捨選択していった。

○両校の部活動は全て残した。現在は人数が増えて活発になったが体育館の利用面が厳しい。グラウンド利用の部活動は、譲り合いながら活動している。

○飛翔祭の鑑賞態度が素晴らしかった。楽しく盛り上がる、静かに鑑賞するという切替ができる。明るく弾けて、すぐに落ち着ける態度に成長を感じた。

(5) 教職員の負担

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 校務分掌上の負担が軽くなった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約2割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約4割を占めている。

イ 学校行事の運営などの負担が軽くなった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約2割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約5割を占めている。

検証結果

この設問は、統合に伴う教職員の校務負担の分散の実感を調査するものである。

校務分掌上及び学校行事の運営などの負担について、いずれもが否定的評価が高い。校務については、教務部・生活指導部・進路学習部・学校経営支援部などで分掌し、学校行事については、学校行事委員会を設け、組織として対応しており、教育委員会としても、統合の前年度より教員のかまをりを行ったり、スクールカウンセラーの派遣時間を拡充するなど支援をしているが、統合前後の事務量の多さや、初めてのことが多いことなどが考えられる。

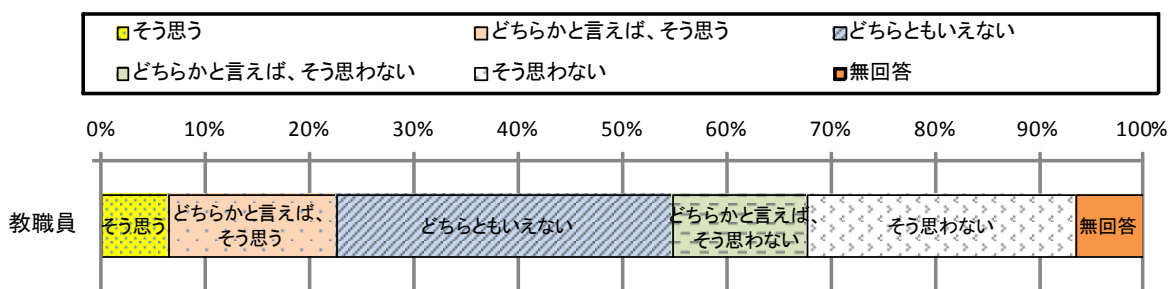
10 教職員の負担 ※教職員

(1) 校務分掌上の負担が軽くなった。

【対象:教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約2割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、否定的意見(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約4割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	2	5	10	4	8	2	31
	6.5%	16.1%	32.3%	12.9%	25.8%	6.5%	100%

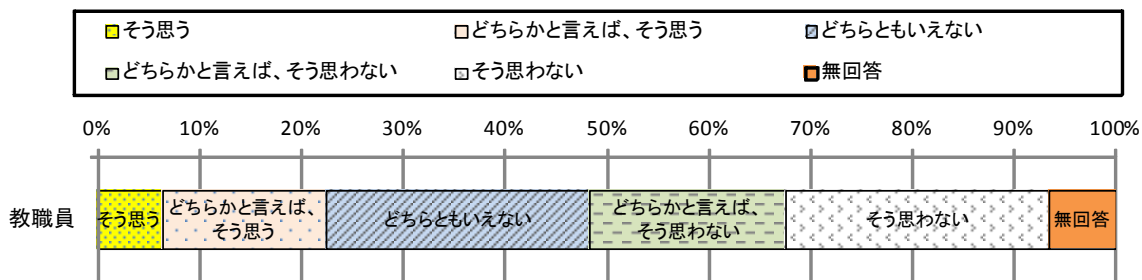


(2) 学校行事の運営などの負担が軽くなった。

【対象:教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約2割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約5割を占めている。

	そう思う	どちらかと言 えば、そう思 う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	2	5	8	6	8	2	31
	6.5%	16.1%	25.8%	19.4%	25.8%	6.5%	100%



自由意見（要旨）

○校舎改修や制服、体操服、校歌、部活の精選、PTA 活動、校章…決めることが数多く、そして、引越し作業、式典、生徒指導、進路指導…考えただけでも頭がクラクラしそうな位、大変な作業だっただろうと思うと、本当に頭が下がります。そして、先生方の指導のお陰で生徒たちは、道を大きくそれたりせず、行事等を一生懸命やってくれている姿を見るにつれ、本当に安心していきます。感謝に絶えません、ありがとうございます。大鳥中バンザイ！！です。（大鳥中卒業生保護者）

○校長先生はじめ先生方の人事がすばらしいので、子供達も落ち着いて学校生活を送れていると思います。統合した後の混乱を少なくするためにも、やはり先生方の人事配置は重要になると思います。（在校生保護者）

○大鳥中学校の先生方が非常に積極的で、生徒のことをとても気を使っていて、いい環境を作っています。（在校生保護者）

○生徒に統合をリスクと感じさせない様、先生方も日々努力されていて、保護者である私も、子供も素敵な学校であることに感謝しております。（在校生保護者）

○6年時に大鳥中の学校だよりが配布されました。中学校の行事、内容、取り組みがよくわかり、とても参考になりました。学校説明会時にご説明くださった校長先生のお話にもとても魅力を感じました（校長先生がかわってしまったら魅力は半減です！。スピーチ中の英語も素敵です。）。やはり、校長先生の方針によって学校の雰囲気、カラーが決まると思います（先生方の風通しのよさ、子どもたち、地域との関係など良好と思います。）。大鳥中の元気があって活気がある校風を守ってほしいです。少なくともあと2年は、牛島校長先生にお願いしたいです。ぜひぜひよろしくお願ひいたします（三中、四中を知りつくした先生だからこそ、安心しておまかせできると感じております。）（在校生保護者）

○旧四中に長男がおりました（合併前）。その時と比較して、先生方がすばらしい！熱心で力量のある先生方がそろっていると感じました。やはり、教育は指導者次第と思いました。落ちついたからと言って、先生を変えないでほしい。（在校生保護者）

○開校の年が入学の年でしたので、先生方はとてもたいへんだったと思いますが、1つ1つの行事や学習それぞれを大切にすすめていただき、感謝しています。特に校長先生の気配りには頭が下がります。ただ、在校中に環境がかわつたらと考えると、なかなかたいへんだろうなとも思います。（在校生保護者）

○良い先輩（PTA もです）、良い先生にめぐまれて感謝しています。（在校生保護者）

○現場の先生方は、子ども達のためにも力を発揮してくださっていると思う。大変に感謝しています。（在校生保護者）

○先生方も統合校ということで、メリハリを持って臨んでくださっています。（在校生保護者）

○教職員同士の方がもっと関わりを持った方が良いと思います。○○小だから、中学校だからではなく大鳥中学校区として、先生方のつながりの方が希薄に見えます。それで小中連携…と言われても???です。（在校生保護者）

○先生方の指導がきちんとあったので、大鳥中は落ち着いているのだろうと思う。（在校生保護者）

○説明会で、校長の方針としては「まずは学業」という考えに共感し学校を選んだが、他の先生方にその方針が伝わっていないと感じた（部活優先等）。（在校生保護者）

○全生徒迄、教員の目が届いてない気がする。（在校生保護者）

○統合当初は、学校が荒れたり落ち着くまでいどれほど時間がかかるのか、親も子も不安に思っていました。始まってみればほとんど心配するようなこともなく、順調に学校生活を送ることが出来、安心しました。それも、皆様のおかげと感謝しております。（在校生保護者）

○統合に際しては、両校の伝統ややり方等を踏襲したままだと逆に盛りだくさんになり過ぎ、なかなか難しいかもしれませんが、思い切って削る作業もしていかないと、負担感は非常に増したように思います。できることとできないことを、しっかり地域・保護者に伝えていくことも必要だと思います。学校のあり方を区の方でもしっかりご議論いただきたいと思います。（教職員）

○統合により、目に見えない負担（三中・四中の生徒指導の方針の違いによる混乱など）がかなりあることを、現場以外にはわかっていただけていない気がします。あれもこれもと学校行事、地域の行事等数多くあり、日々の生活にただ、ただおわられて、こなすのに精一杯な状況です。仕事をそつなくこなす方とそうでない方が別れていて、結局仕事がかかりかたよっているように感じます。これが統合のあおりなのか、ただ単に日本の学校の教員の実情なのかはわかりません。子ども達のために、もっと時間をつかわせてほしいです。大鳥中の校長先生や副校長先生は、とてもお優しくてご理解のある方ですし、職員の方々もとてもいい方が多いです、生徒達も落ちついてとてもいい子たちですので、その点は感謝しています。（教職員）

大鳥中学校長ヒアリング

○初年度とその1年前はどのように動いていたか思い出せない程、忙しかった。色々早めに準備しているとするが、交流行事など負担に感じたようだ。閉校・開校とそれぞれの作業量も多い中で、交流活動や会議等があった。

○初めてのことが多いことも負担感の理由だと思う。

○統合当初のようすは、次のとおりであった。

●3月中

閉校式、引っ越し業務、新校立ち上げ業務、会議等でかなりの激務、多忙な日々連続

三中……工事、施設活用計画、物品取捨選択、物品配置

四中……物品取捨選択、引っ越し、物品配置

●4月当初

新校立ち上げ……会議の連続、学年組織・分掌組織編成、クラス編成、部活動顧問決め

始業式、入学式、開校式準備、保護者会準備、運動会実施要項検討

挨拶まわり、PTA 役員対応、クレーム対応、質問要望への対応

(教育計画・教育内容、生活のきまり等については、準備期間中に概ね検討が済んでいた
ので、新たなメンバーを加えて、追加や確認作業を中心に行った)

○業務負担軽減策

(行事)

当初……開校記念式典を校内で実施(入学式の式場準備を活用)

運動会……競技中心に簡素化、応援団シンプルに、装飾PTAに協力依頼

挨拶運動……6月、10月年間6日、小学校へ挨拶出前は継続

校門前全教員毎日参加を一部教員担当者だけに縮小

進路指導……2年生、上級学校訪問を学校主導から家庭主導に、夏季休業中に

文化祭……ステージの部と展示の部を2分化し、時期を変える

ステージの部から弁論大会をカット

(庶務) 事務主事、栄養職員、学校用務との連携、業務シフト

(教育相談・不登校対応) カウンセラー3名との連携・協力

(連携) PTA・地域の方からの協力申し出のおかげで、ずいぶんと助けられてきた

○統合立ち上げの苦労は誰もが実感していたが、それと同時に、新たな学校を創るという楽しみも実感しており、苦労が不満にはならなかった。統合効果での生徒の成長のようすを見たり、生徒の感じる統合のメリットや肯定的な感想を聞いたりすることで、疲れを忘れ、充実感に変わっていった教職員も多いのではないかと考える。華々しい成果も目立ってきており、多忙であったのは事実であるが、日常的に不平・不満を耳にしたことはない。

*アンケートの数字は、統合による負担感と同時に、全国的に蔓延する教職員共通の日常的な負担感も含まれているのかもしれない。

(6) 大鳥中学校と保護者、地域との関係

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 学校との関係が緊密になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約4割を、中間的評価が約4割を、否定的評価が約1割を占めている。

イ 保護者との関係が緊密になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約3割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約1割を、無回答が約4割を占めている。

ウ 地域との関係が緊密になった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約4割を、中間的評価が約2割を、否定的評価が約1割を、無回答が約4割を占めている。

検証結果

この設問は、統合による学校、保護者、地域の関係について変化の実感を調査するものである。

いずれも肯定的評価が約3～4割、中間的評価が約2～4割である。地域教育懇談会主催のイベントへの参加や生徒の地域ボランティアの実施にも取り組んでいるが変化を実感するほどではない。なお、統合後に学級単位の保護者間の交流の機会がほしかったという意見が一部にあった。

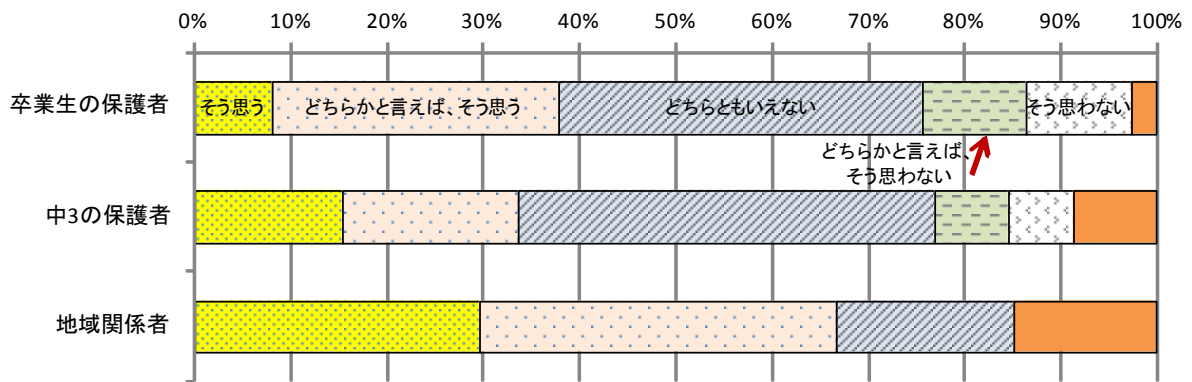
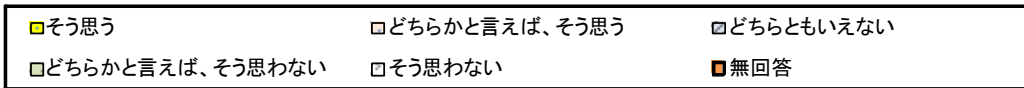
11 大鳥中学校と保護者、地域との関係

(1) 学校との関係が緊密になった。

【対象: 卒業生の保護者、中3の保護者、地域関係者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約4割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約4割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
卒業生の保護者	3	11	14	4	4	1	37
中3の保護者	16	19	45	8	7	9	104
地域関係者	8	10	5	0	0	4	27
計	27	40	64	12	11	14	168
	16.1%	23.8%	38.1%	7.1%	6.5%	8.3%	100%

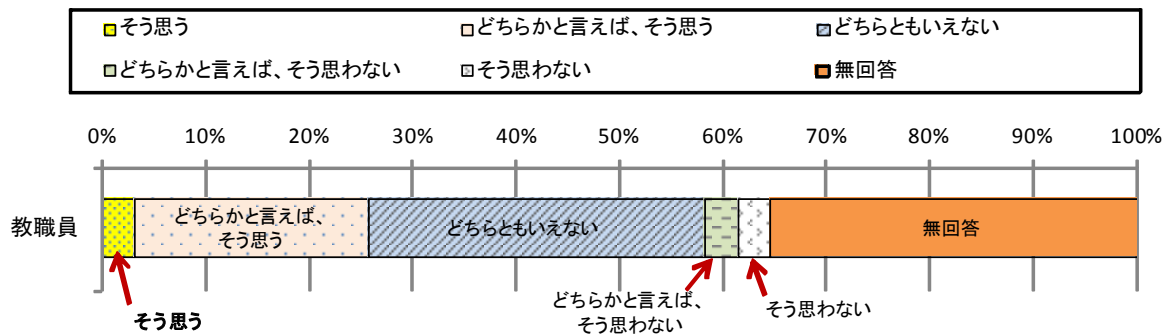


(2) 保護者との関係が緊密になった。

【対象: 教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約3割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、無回答が約4割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	1	7	10	1	1	11	31
	3.2%	22.6%	32.3%	3.2%	3.2%	35.5%	100%

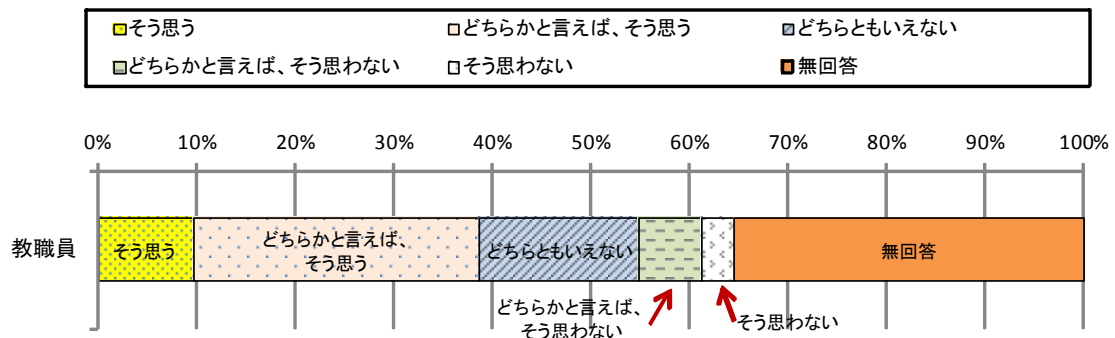


(3) 地域との関係が緊密になった、

【対象: 教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約4割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を、無回答が約4割を占めている。

	そう思う	どちらかと言 えば、そう思 う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
教職員	3	9	5	2	1	11	31
	9.7%	29.0%	16.1%	6.5%	3.2%	35.5%	100%



自由意見（要旨）

- 保護者の交流はあまりなかったと思われます。統合前に合同交流の場が持たれた方が(説明会だけではなく)よいのかもしれません。(大鳥中卒業生保護者)
- 三中出身の保護者とは、交流することが出来ず残念でした。保護者会の充実を望みます。(大鳥中卒業生保護者)
- 統合後一度もクラス別保護者会がなく(学年合同だけ)、3年生で保護者間の交流がもてなく、統合したのに全く他の学校からの保護者と交流どころか顔も覚えられなかった。保護者は、クラスとしての交流もないので貴重な最終学年が感動もなく残念。(大鳥中卒業生保護者)
- 地域の方もあたたかいです。(在校生保護者)
- 生徒諸君(1～2年生)が地域の活動に参加するように、そして、地域の人々とのコミュニケーション作りに興味を持てるように学校のご指導をお願いしたいと思います。(地域関係者)
- 統合してまだ一年という事もあり、地域(四住区)同士が若干ギクシャクしているように感じます。子供達を支えられるよう、地域は、もっとどんな事でも受け止められる懐の深さと柔軟な頭を持って欲しい。(大鳥中卒業生保護者)
- まわりの保護者や地域の方々は、見守り育ててゆく努力が必要だ。幸い、地域も生徒たち・学校へ応援の姿を見せてくれているので、今後もその立場を守り、大鳥中を応援して欲しいと思います。(在校生保護者)

大鳥中学校長ヒアリング

- 新校となり、区連体や部活など色々と成果も上がってきて、学校の勢いが出てきたことを皆さんが喜んでくださり、地域・PTAとも関係は良好だと感じている。
- 地域教育懇談会主催の事業など、地域との交流は活発である。
- 地域の方には生徒の面接も手伝ってもらっている。

(7) 統合の過程

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 説明会、広報紙などで統合に関する情報が積極的に伝えられた。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約1割を、否定的評価が約1割を占めている。

イ 交流活動として、旧第三中学校と旧第四中学校で合同遠足、自然宿泊体験教室、英会話教室が行われ交流が深まった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を、無回答が約2割を占めている。

ウ 交流活動として、下目黒小、油面小、田道小、不動小学校の4校で合同遠足が行われ交流が深まった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約2割を、無回答が約2割を占めている。

検証結果

この設問は、統合の過程における情報発信や交流活動についての実感を調査するものである。

積極的に情報発信されたことについて高い肯定的評価を得ている。保護者や区民を対象とした説明会の実施や、「第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会だより」等広報紙の発行などに取り組んだことがこのように評価されたものと捉えられる。

交流活動により交流が深まったことについて高い肯定的評価を得ている。第三・第四中学校両校の生徒が統合の過程で豊かな人間関係を構築していくことが重要なポイントになるとして移行期間中に様々な交流活動を行い、両校の生徒の豊かな人間関係の構築に向けた取り組みを進めていくとともに、各小学校との交流や小学校間の交流などを通じ、期待を持って統合新校に進学できる環境づくりに努めたことで成果が得られたと考える。一方で、同一学校で固まるなど取り組み方に対する意見が一部にあった。

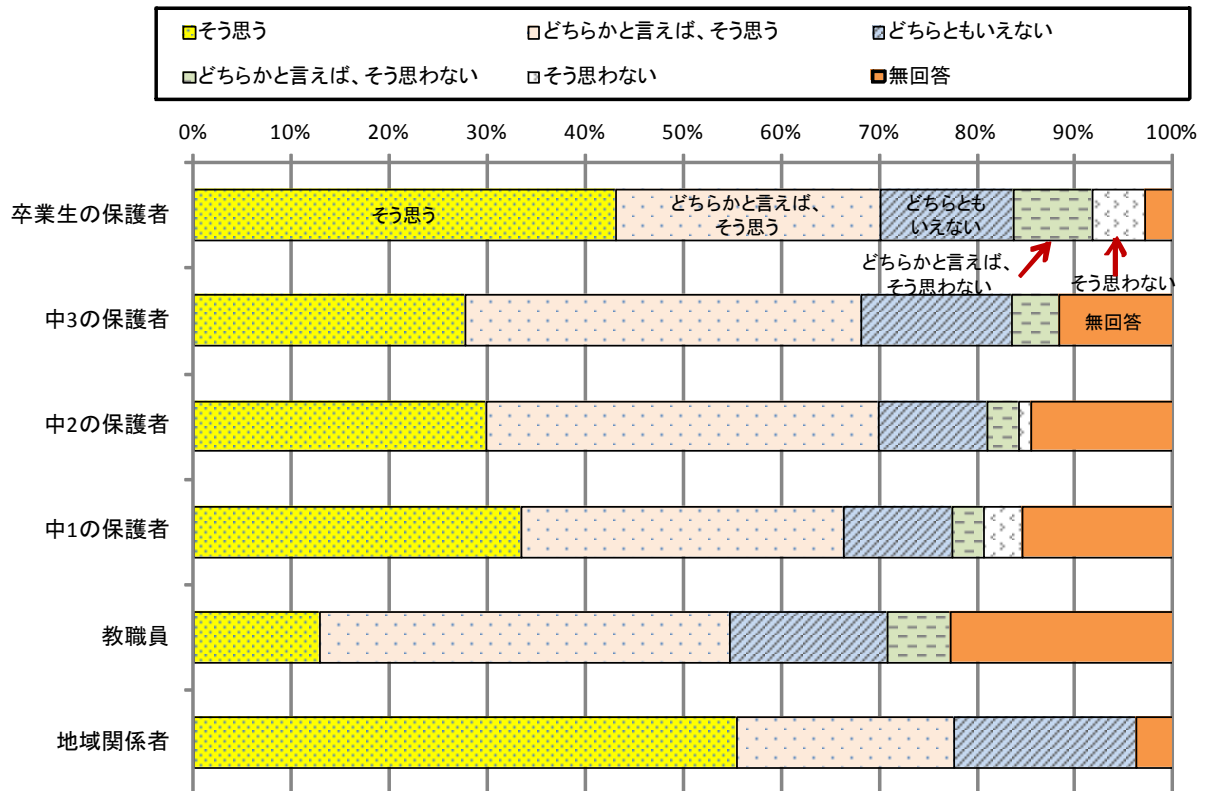
12 統合の過程

(1) 説明会、広報紙などで統合に関する情報が積極的に伝えられた。

【対象: 全保護者、教職員、地域関係者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を、無回答が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらとも いえない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
卒業生の保護者	16	10	5	3	2	1	37
中3の保護者	29	42	16	5	0	12	104
中2の保護者	27	36	10	3	1	13	90
中1の保護者	42	41	14	4	5	19	125
教職員	4	13	5	2	0	7	31
地域関係者	15	6	5	0	0	1	27
計	133	148	55	17	8	53	414
	32.1%	35.7%	13.3%	4.1%	1.9%	12.8%	100%

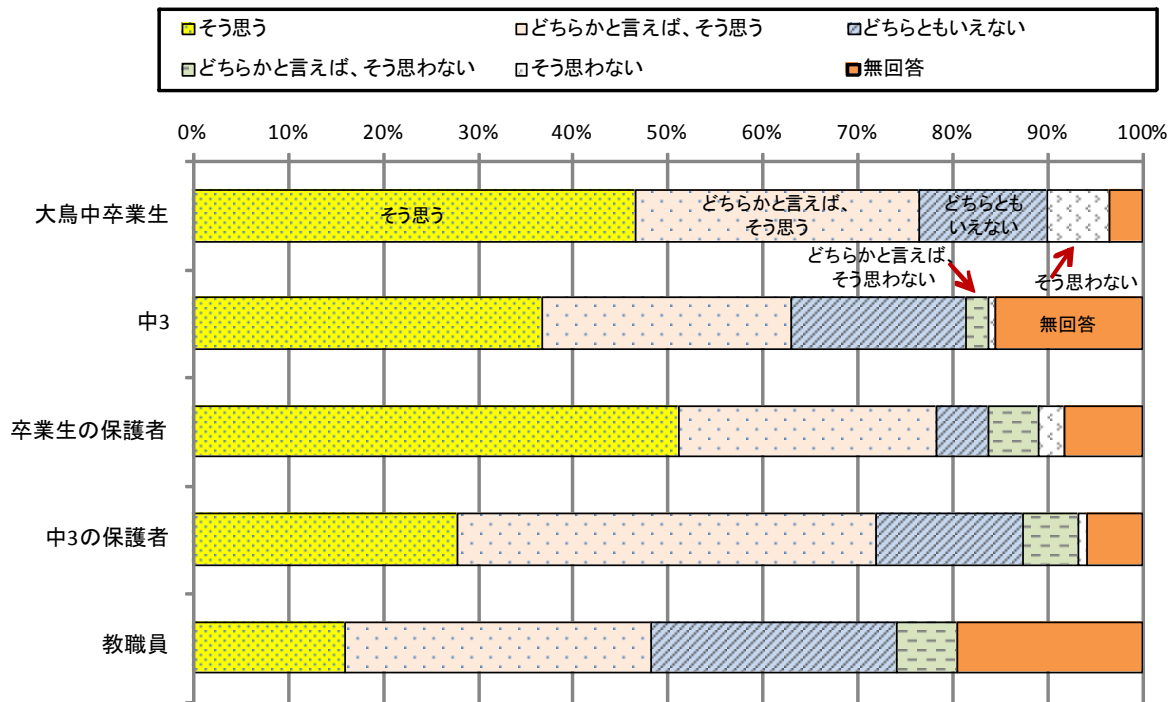


(2) 交流活動として、旧第三中学校と旧第四中学校で合同遠足、自然宿泊体験教室、英会話教室が行われ交流が深まった。

【対象: 卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者、教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、無回答が約1割を占めている。

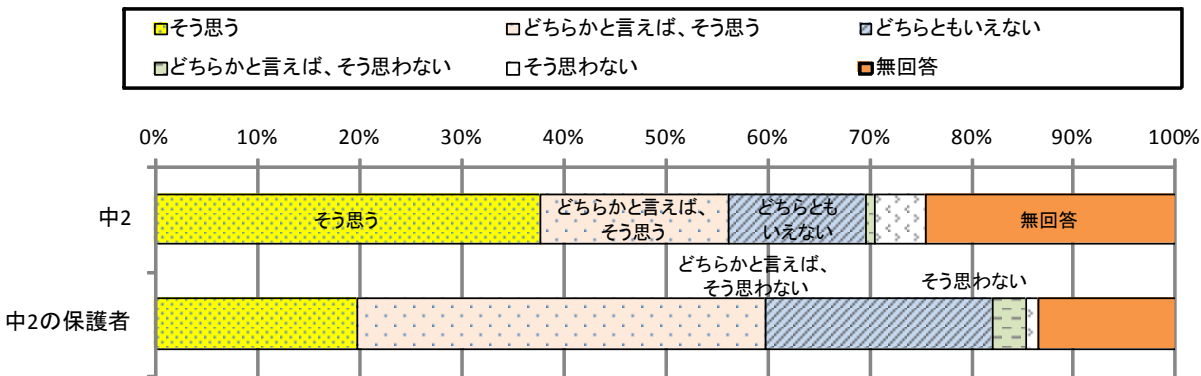
	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	14	9	4	0	2	1	30
中3	48	34	24	3	1	20	130
卒業生の保護者	19	10	2	2	1	3	37
中3の保護者	29	46	16	6	1	6	104
教職員	5	10	8	2	0	6	31
計	115	109	54	13	5	36	332
	34.6%	32.8%	16.3%	3.9%	1.5%	10.8%	100%



(3) 交流活動として、下目黒小、油面小、田道小、不動小学校の4校で合同遠足が行われ交流が深まった。
【対象：中2、中2の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、無回答が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
中2	45	22	16	1	6	29	119
中2の保護者	18	36	20	3	1	12	90
計	63	58	36	4	7	41	209
	30.1%	27.8%	17.2%	1.9%	3.3%	19.6%	100%



自由意見（要旨）

■情報発信

- 小学校を越境していると情報がぼぼ入ってこなかった。越境を認めるのだから、学区内の生徒には、手紙でも情報がほしかったと思いました(説明会の日時など。)(在校生保護者)
- 統合に関するメリットの説明あったが、デメリットに関する情報がなく逆に父母間でデメリットのウワサが流れやすかった。(在校生保護者)
- 統合のすすみ具合(制服など具体的なこと)をもう少し早く、保護者に伝えてほしかったです。(在校生保護者)
- 事前の情報提供は、複数日にわたり行われていた。良い先生を集めるということだったが、実際、旧三中・四中の先生が集められただけと感じた。結果的には満足している。(在校生保護者)
- 区の説明だけではどうも納得のできる内容ではなかった。地域の方やPTAが意見し、納得できる形までもってきてここまで来れたと思う。色々な形で区と学校、地域、保護者、卒業生などが協力し合いながら進めていける事が重要で、それぞれが譲歩しなければ成立しないと思う。(在校生保護者)
- 教育委員会には、ポジティブな情報発信を期待しています。(大鳥中卒業生保護者)

■交流活動

- 合同遠足はあまり交流していなかった。各学校ごとにかたまっていた。(在校生)
- 統合前の小学校同士、小中での交流は非常によかった。(大鳥中卒業生保護者)
- 統合まで小学校レベルでの交流を盛んにしたことで、より一層、流れを作ることができたのが非常によかった。(大鳥中卒業生保護者)
- 交流活動としての4小学校での合同遠足は、特に必要性を感じなかった。本人が遠足を経て入学したものの、その時の子供とのコミュニケーションが有益になったと感じていない。あの時一緒に活動した子はだれだったかなーと言ってます。(在校生保護者)
- 交流活動としての遠足は、正直必要ないと思いました。当時本人達は、ここで友人との交流をもてたとも話してなかったし、結局は入学して日々の生活を共にして互いを理解していくのに限ると思うからです。(在校生保護者)

■統合の取組み

- 開校まで、とても丁寧にすすめていただけたと思います。(在校生保護者)
- 学校統合に際し、牛島校長はじめ教職員の方々の「良い学校を作ろう」という意欲が伝わってきました。統合には反対の気持ちが強くなりましたが、結果として良かったです。(在校生保護者)
- 統合過程では保護者の思いと教育委員会とはズレがあったように思う。統合で節約するところは節約し、それを質のアップに充てていただきたい。(在校生保護者)
- 統合にむけて、とても気をつけてくださっていたことがよくわかります。(在校生保護者)
- 統合に向けて生徒たちが積極的に関わらせていただいたので、生徒たちが新しい学校を自分たちで作っていく！という意識を持って様々なことに取り組んできたように思います。生徒の雰囲気、PTAの活動、地域との関わり方…どれをとっても全く異なる二校の統合でしたがうまく融合できたのは、三・四中両校にゆかりのある牛島校長先生を準備校長から初代校長と中心にしたのも大きかったと思っています。諸先生方、統合推進課の方々、地域の方々、保護者、生徒、統合に関わった全員で成し遂げた。今回の統合、保護者として関わられたこと、子どもを通わせることができたこと、本当によかったと思います。子どもにとっても貴重な体験となりました。ありがとうございます。(在校生保護者)
- 一つ残念な事は離任式がなかったという事です。やはり、あれだけ濃い1年をすごした先生方とお別れもできなかったのは、先生も生徒もかわいそうです。両方合同でもするべきであったと今でも思い出すとなかなしいです。(在校生保護者)
- 子どもたちが、お互いを尊重し合い、認めようと努力していた。子どもたちの柔軟な行動が素晴らしいと思いました。また、職員や教員が同じ方向に向かって取り組み、統合を成功させたと思います。(教職員)

大鳥中学校長ヒアリング

- 「統合は子ども達にとってデメリットではなくメリットである」と説得役として頑張ろうと思った。
- 保護者は、子ども達の負担が大きいと心配だったようだ。校長として「子ども達のために統合を成功させましょう」と話をした。大きく不平不満が飛び交う状況ではなかったが、詳しい内容がわからないのでそのような発言が多かった。生徒に対しては、全体集会での説明など段階を踏んでいった。
- 統合新校推進協議会の人選がよく、会長や副会長がリードした。会議は混乱もなく、前向きな意見が多かった。
- 統合新校整備方針ができてからは動くのみだった。教科検討は教育部会後に両校の教員が残るなどの工夫をしてからは進んだ。
- 開設準備担当校長への就任については、定年退職を控えていたので、若い人が残ったほうが良いのではないかと考えたが、拝命するからには、統合成功のために邁進する気持ちであった。
- 両校の交流活動を通して、生徒が「一緒になると楽しそうだ」という事に気付いた。生徒・保護者・地域は、統合すると「いじめ」「派閥ができるのではないかなど不安があったが、生徒同士が安心したようだ。
- 交流活動は、既存行事に組み合わせるなど柔軟に対応することで負担感も減ってきた。徐々に親しみが増すので、回数・内容は適切だった。小学校同士の交流が行われたのも良い。
- 統合だよりは貴重、保護者は知りたがる。会議状況に進捗が無くても進んでないという事を知りたいものだ。

第4 大鳥中学校の統合による成果・課題

1 成果

(1) 全体

学校統合により大鳥中学校が開校したことについて、全体的に満足感が得られたことである(検証結果p 25)。学校の適正規模化(学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模)が実現できたことにより、求められる生徒数と教員数を確保でき、活力ある学習活動を展開し、集団の中で豊かな人間関係をはぐくみ、充実した学習・指導体制を整えるというねらいを満たすことができたものと言える。また、統合に当たって、統合方針及び統合新校整備方針に則り、計画的に、かつ、保護者、生徒、地域関係者、学校関係者、教育委員会の協力のもとに達成でき、そのプロセスも妥当であったと考察できる。

(2) 学校規模

生徒数、学級数、教職員数、部活動数が増えたことについて、満足感が得られたことである(検証結果p 25)。適正規模化の実現が、学校に活力を生むきっかけとなったと言える。

(3) 統合による生徒の変化等

ア 統合後の学校生活における生徒の変化や様子

第1に、友人関係が広がったこと、及び勉強する意欲や競い合う気持ちなどが高まるきっかけになったことである(検証結果p 33)。このことは、生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることができる環境が整えられたものと言える。

第2に、生徒が専門部会に参加することなどにより選定した標準服が好評であったことである(検証結果p 41)。統合の過程においては、標準服等を選定する際に第三・第四中学校の在学生在が専門部会に加わることにより、生徒の目線を反映するとともに、新しい学校における一体感が醸成することができた。また、業者によるプレゼンテーションを体育館で公開により行うなど、広く一般の生徒たちの声を汲み取るよう努めた。このように当事者として参加することにより、自分たちの学校づくりができたものである。校歌や校章の作成、スクールカラーの決定に当たっても同様に取り組んだものであり有効であった。

第3に、校舎、体育館棟の内装改修等により学校生活が過ごしやすくなったことである(検証結果p 44)。これは、前述の例示や生徒用ロッカーの設置など様々な工夫をすることにより、既存の学校施設の活用による統合の妥当性が高まったことである。大鳥中学校の学校施設については、旧第三中学校の既存校舎を改修することにより対応したものであるが、これは、平成24年の統合方針改定時に、大規模改修・改築時に捉われない進め方を導入したものであり、効果的な整備が図られたものと考察する。

第4に、通学区域の設定が概ね理解されたことである(検証結果p 48)。通学区域の広がりに伴い通学距離が長くなった生徒や保護者からは、特に気になっていないという評価を概ね得ている。生徒用ロッカーの設置などを行い、登下校における負担に配慮している。

イ その他の生徒の変化や様子

統合の過程において、2年間にわたる学校間の交流活動により交流が深まったことであ

る（検証結果p 80）。交流活動は、第三・第四中学校の生徒が統合の過程の中で豊かな人間関係を構築していくことが重要と捉え、積極的に取り組み、校区4小学校間の交流も行ったものである。なお、平成26年度に第三・第四中学校の交流事業として実施した「E（イングリッシュ）キャンプ」は、大鳥中学校に引き継がれ、魅力づくりに寄与している。

（4）統合による教育効果等

ア 学校経営面及び学校生活面の効果

第1に、電子黒板などICT機器の導入や教職員数の増加が学習指導充実のきっかけになったことである（検証結果p 53）。ICT機器の導入により、視覚的效果など生徒の集中力を高め、学習意欲を引き出すことができた。また、統合により多数の教員を配置できることにより、多様な教育内容の提供や、一人の生徒に対する異なった視点からの評価や、同一教科の担当教員間の教科研究などが可能になり、学習・指導体制を充実化できたものと言える。

第2に、教職員数の増加により、学年経営、学級経営、生活指導等が充実するようになったことである（検証結果p 58）。より多面的な観点で指導でき、教職員間で協力して指導に当たる意識や互いの良さを取り入れることができるようになったものと言える。統合新校の目指す学校像や教育目標、指導等については、平成24年度から専門部会で継続して検討してきており、教育の基盤づくりにしっかりと取り組んだ結果である。

第3に、特別活動が活発になったことである（検証結果p 67）。集団の規模が大きくなることにより、望ましい集団活動が可能となり、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う体制が整えられたものと考察する。

イ 統合によって実施した特徴的な教育活動等

特色ある教育活動が学校の魅力づくりに寄与していることである（検証結果p 62）。大鳥中学校では、「人権教育の推進」、「英語によるコミュニケーション能力の育成」、「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」の3つの教育活動に取り組んでいる。これらは、統合の過程において時間をかけて検討したものであり、特に、英語教育はEキャンプやいつでもどこでも英会話などの事業展開により関心を得ている。

ウ 保護者や地域の反応等

統合の過程において、説明会の開催や広報紙の発行などの情報発信が有効であったことである（検証結果p 80）。区民説明会や保護者説明会を統合の進捗状況に合わせ適時適切に開催したり、統合新校推進協議会だより等の広報紙を発行するなどをし、保護者や地域の不安を解消し、統合に関する理解を得たものである。

2 課題

(1) 統合による生徒の変化等

第1に、生徒が意見や発表をしやすくなったことの実感が強くは得られていないことである(検証結果p 33)。これは、中間的評価が約5割を占めていることから、統合前と変わらない状況であると理解される。昼休みの英会話教室など生徒が主体性を発揮できるような機会を設けているが、より積極的に意見や発表を促すよう取り組む必要がある。

第2に、いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれることの実感が強くは得られていないことである(検証結果p 33)。こちらも中間的評価が5割を占めていることから統合前と変わらない状況であると解釈される。早期発見・早期解決の趣旨からもその徹底を図る必要がある。

第3に、通学区域の拡大について、起床や体力面への不安が一部にあることである(検証結果p 48)。統合方針において、新設中学校の通学区域は、原則として統合する各校の通学区域を合わせたものとしている。大鳥中学校では、前述のとおり生徒用ロッカーの配置等により体力面等への配慮をしているが、そのような意見が一部にあることを認識する必要がある。

第4に、学校間の交流活動について、同一学校で固まるなど取り組み方に対する意見が一部にあったことである。この活動は、統合の過程の中で豊かな人間関係を構築していくことが重要と捉えて実施したものであり、その効果を最大限に発揮するよう内容を検討する必要がある。

(2) 統合による教育効果等

第1に、教職員に校務分掌上、学校運営上の負担が軽くなったことについて実感が強くは得られていないことである(検証結果p 72)。統合の前後は、例えば、「校名、校章、校歌、校則等の決定に向けた調整」、「修学旅行、運動会、文化祭、校外活動等の行事、特色ある教育活動の調整」、「標準服、体育着、かばん、その他事務用品の調整」、「教材、教具、備品、図書等の整理・廃棄」「記念式典の準備・実施」等様々な事務が発生し、開校後においても初めてのことが多く、また、事務事業が細部まで整理されていない面もある。統合により期待されることに教員の校務負担の分散がある。大鳥中学校としても事務軽減等に努めているが、これが実感されるよう教育委員会と連携して事務事業の精査やチーム学校などの取組みに努める必要がある。

第2に、部活動について、一部に練習時間や活動場所の制限について不満の声があることである(検証結果p 67)。大鳥中学校の部活動については、第三・第四中学校の部活動をそのまま引き継いだものである。平成27年度20部、本年度19部であり、特に運動部について、このような意見がある。部活動数が増えてよかったという声がある一方で、このような意見があることを認識する必要がある。

第3に、大鳥中学校と保護者、地域との関係の緊密化が図られたという実感が強くは得られていないことである(検証結果p 76)。PTAはもとより、地域教育懇談会主催のイベントや、社会を明るくする運動等の地域からの協力や、地域行事への生徒のボランティア参加など様々な形で関わりを強めているが、さらなる取り組みが必要である。子どもに求められ

る資質や能力は、多様な人々と関わり、様々な経験を重ねていく中で育まれるものであり、学校のみで育成できるものではなく、また、多様化・複雑化するニーズに対応していくためには、保護者や地域の支えが必要となり、その土壌が培われるものと考える。

第4に、統合後に学級単位の保護者の交流の機会が欲しかったという意見が一部にあったことである。統合新校に対する保護者の期待も大きい中で、他の保護者への関心も高めようという際に、そのような意見があることを認識する必要がある。

第5 南部・西部地区の区立中学校の統合に関する課題

1 学校生活面

第1に、生徒や教職員が学校生活の変化に適応するよう統合過程等の交流活動等に取り組むなど配慮することである。新校の安定にあつては、早期に学校生活が落ち着くことが肝要である。統合においては、生徒も保護者も教職員も不安を抱くものであり、その解消のためには、早くから交流し、友好関係を確保し、統合への意識醸成を図ることがのぞましい。ただし、生徒や教職員の負担にならないよう配慮する必要がある。また、スクールカウンセラーの派遣時間の拡充等により相談体制を厚くすることが大事である。

第2に、生徒ができるだけ参加する場を設定するよう努め、統合新校の一体感を醸成することである。大鳥中学校の統合では、標準服部会や校章・校旗、校歌部会に生徒を加え、また、広くアンケート等を行い、生徒の声を反映させる仕組みを作り、自分たちの学校という意識を持たせることができた。今後とも生徒自身が当事者として参加することは大事である。

第3に、通学区域の拡大について生徒に配慮することである。大鳥中学校では、荷物の負担を鑑み生徒用ロッカーを設置したり、授業が通常より早めに終わる水曜日に部活動がある場合に再登校（いったん帰宅してから改めて登校すること）を求めることなく図書室で自習ができる体制をとっている。安全面はもとより、このような工夫が必要である。

2 学校経営面

第1に、学習指導が充実するよう教育ニーズに即した教育環境の整備を図ることである。

大鳥中学校では、全教室に電子黒板を配置するなどICT機器の導入を図り、生徒及び教員から学習指導充実のきっかけになっていると評価を得ている。教職員が増えることによる学習・指導体制の充実化はもちろんであるが、生徒の学習意欲を引き出すよう教育ニーズを積極的に把握し、教育環境を整備する必要がある。

第2に、特色ある教育活動により学校の魅力を高めることである。今回の統合の特色は、既存の学校施設を改修して新校を開校したことである。学校の魅力づくりという点においては、目黒中央中学校のように新校舎を拠点としたハード面での展開が難しいため、特色ある教育活動というソフト面をどのように展開していくかが重要となる。大鳥中学校においては、3つの特色ある教育活動に取り組んでおり、特に英語教育については、広く関心を得ている。

第3に、統合に伴う教員の負担感をできるだけ解消するよう努めることである。統合の前後は、前述のとおり様々な事務が発生し、開校後においても初めてのことが多く、事務事業が整理されていない面もある。そのため、適切な役割分担をしながら計画的に進めることが必要である。そして、負担感の解消が実感されるよう事務事業の精査やチーム学校などの取組みに努める必要がある。

第4に、統合前の既存の部活動の発展・存続など十分検討することである。部活動数の増加は学校の活力につながるが、一方で、施設規模によっては練習時間や活動場所の制限が生じることもある。そのため、生徒、保護者、教職員、指導者など関係者の意見を十分に聞きながら取り組むことが必要である。

3 保護者・地域の課題

第1に、保護者や地域に向けて積極的に情報発信を行い、理解・協力を得るよう努めることである。学校の運営を円滑に図るためには、保護者や地域の良い関係が欠かせない。また、特に保護者はより多くの情報を期待しているため、統合の進捗はもとより、学校選択や進路の決定に活かされるよう学校像や部活動などについて具体的に伝えていく必要がある。

第2に、保護者間の交流に配慮することである。前述のとおり、大鳥中学校の統合後に学級単位の保護者の交流の機会が欲しかったという意見が一部にあり、確かに新しい学校に関わろうとする中で、他の保護者への関心が高まるのは自然なことであり、保護者会等によりそのような機会を持つことが望ましい。